

「大学生活について」 大学 児童学部 2 学年

私にとって大学生活は、自分の中の新しい自分を発見する大切な時間だと思っています。高校までとは異なり、大学では自らの興味や関心に基づいて学びを深めることができます。最初は講義数や講義時間の長さに戸惑うことが多くありましたが、次第に自分で計画的に行動し時間を作れるようになってきました。

今までの授業で、印象に残っているのは実習です。専門的なことを学び、すぐに実践できます。保育現場を実際に見て、感じ、発見することが大切です。また、授業では自分の考えを発表する場面が多くあります。私は、自分の気持ちを言語化することが苦手でしたが、繰り返し練習するうちに自信を持って発表できるようになりました。友人の意見を聞くことで自分にはなかった視点や価値観に触れ、物事を色々な視点でみて考える力も養われたと思います。

学業だけでなく、バイトをする事や長期休みも大学生活の大きな魅力だと思っています。私は大学生になってから、初めてバイトをしましたが社会の厳しさを感じました。バイト先では幅広い年齢層の人間関係を築くことができ、刺激を受ける日々です。長期休みは高校時代に比べ長いため、今まで挑戦出来なかったことや体験を自分で計画し行うことができます。以前の私は親に頼ってばかりでしたが、今では1人で遠くに行けるようになり、他県の友人と会うことに楽しさと達成感を感じています。勉強は大変ですが、大学に行ってよかったと感じます。

大学生活を約2年送り、知識や技術を学ぶだけでなく人との関わりや社会経験を通じて自分自身の可能性を広げる時間であると感じています。あと2年の残された学生生活を大切に過ごし、将来に向けてさらに専門技術を身につけ、多くの体験をし、社会に貢献出来るようになりたいです。